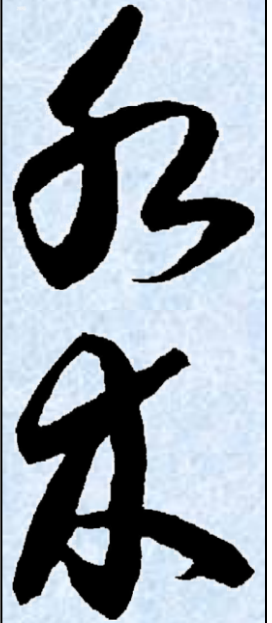


# 令和5年度 総会開催

令和5年度水木学区コミュニティ推進会・泉川をきれいに  
する会の定期総会が4月16日(日)泉が森体育館に於いて  
開催されました。



第136号  
編集・発行  
水木学区  
コミュニティ推進会  
Tel (52) 3225

新型コロナウイルス感染症も終息が見えない中、今まで通りの感染防止対策を取りながら、地区代表、推進会専門部員等、101名の参加を頂き対馬副会長の開会宣言で始まり、森山会長の挨拶後、来賓の大金茂樹泉丘中学校長先生、於曾能弘樹水木小学校長先生からご祝辞をいただきました。



議長に黒澤正明氏を選出し、「令和4年度の事業及び決算報告」「令和5年度の事業(案)、予算(案)」が提案審議され、いずれも満場一致で承認されました。

その後、令和4年度の推進員の方々の一年間のご苦勞を労い、令和5年度新推進員と新役員の方々に一年間よろしくのお願いを申し上げ、古川副会長の閉会の言葉で総会を終了しました。

今後とも皆様のご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。(総務部)

## 令和5年度 事業推進に向けて

会長 森山 和雄



新年度が始まりました。

コロナ禍の中ではありましたが総会を来賓4名を含め総勢105名の参加を頂き、盛会裡に終了いたしました。

コロナ禍も、5月8日より5類へ引き下げが決まり今年度は計画通り実行される事を期待しております。

コミュニティと市が協働に関する理解を深めて、考え方やその進め方について共有するための具体的な取組事項をまとめた「コミュニティ活動推進行動計画」を令和3年12月に策定いたしました。行動計画では、取組の視点として、「組織・活動の活性化・透明化」、「協働体制の強化」、「全世代の居場所づくり」の3つの柱が掲げられ、様々な事業の実施により、行動計画の着実な推進を図ってまいりました。

令和5年度は、前年度の取組の評価・検証や、推進

会議からの提案を基に、次のステップとなる取組に着手するとともに、行動計画の3つの柱を念頭に、各地域での、よりきめ細やかな対応が必要と考えます。

### 【重点取組】

(1) コミュニティ活動推進行動計画への取組(8項目)

(ア) 事務局長会議による人材発掘・育成に関する情報共有

(イ) 専門部会議による活動内容の改善

(ウ) コミュニティのよりどころの周知

(エ) 会計処理ハンドブックの活用、研修会開催

(オ) (仮称)まちづくりコーディネーターの精査

(カ) コミュニティ活動等ハンドブックの活用、広報部同士の情報交換

(キ) 地域のつながりに対する支援策の検討、県地建物取引業協会との協定

(ク) コミュニティ活動に対する謝礼をポイントで付与する仕組みの検討

(2) 脱炭素社会に向けた全世代型コミュニティ環境活動の充実

(ア) スポCOMI大会の開催(6月3日)

(イ) 「くさゼロ・フォトコンテスト」(9月)および「コミュニティくさゼロ写真展」(10月)開催

### (3) 福祉

高齢化、人口減少が進行する中、社会的弱者への虐待、引きこもり、8050問題、ごみ屋敷、ダブルケア、老々介護等が問題となっている。

目指す姿である「コミュニティ活動を中心とした支え合いのまち ひたち」の実現にむけて水木学区は、市と緊密に連携しながら推進してまいります。



令和5年度支部長紹介



小林 秀之さん

東大沼



中村 繁さん

水木西2



西松 英雄さん

水木西1



内山 悦郎さん

水木北



山田 正昭さん

水木南



千葉 達夫さん

新森山



大槻 保典さん

森山

令和5年度 推進会役員(敬称略)

役職	氏名	住所
顧問	佐藤 孝志	水木町2
	内山 広勝	大みか町3
会長	森山 和雄	森山町2
副会長	古川 悦子	水木町1
	対馬 幸悦	東大沼町4
書記	堀江 道雄	森山町1
	小林 芳秋	森山町1
会計	金丸 友世	森山町5
	町田 美妃子	みかの原町2
会計監査	村上 賢一	水木町1
	末富 裕治	東大沼町4
総務部	綿引 純夫	水木町1
広報部	金澤 憲一	森山町1
自主防災部	森山 和雄	森山町2
防犯パトロール隊	佐藤 孝志	水木町2
環境部	山元 隆	みかの原町2
青少年育成部	金丸 友世	森山町5
文化部	金澤 かずえ	森山町1
健康推進部	管野 寛	東大沼町4
体育部	対馬 幸悦	東大沼町4
社協	藤来 稔	東大沼町4

水木抄

四国の島から

山口県東和町は、瀬戸内海に浮かぶ島である。

その一部に人口300ほどの集落があり、大きな産業も無く若者たちは街を出て行く。集落での楽しみは、町の雑貨屋でジュースや菓子で、皆と情報交換を楽しむこと。とはいっても盆暮れには、若者が戻ってくると賑わう。また集落にある緊急通報システムで人々の安否を確認する一声運動もある。同時に集落の目標としては一貫して「自立」と「共存」を掲げている。

自立とは、次の4つの面で各自が責任をもつこと。

「経済」「健康」「精神」そして「生活面」である。集落の人たちは80歳近くまで生涯現役を全うして多くは10日程寝込んで燃え尽きるように旅立つ。

日本人は三代遡れば農民である。今の贅沢さを慎み、今の農地を耕していけば戦後貧しかった頃の食糧難を思い起こす。所詮日本は農業国である。

“世界の大国で農業を軽視している国はない”



(広報部 橋本和彦)

(その形から金魚の島と呼ばれる)

新しくコミュニティ推進員になられた方々に

1. 専門部に所属して事業遂行に参画・参加し、学区内地域活性化のため、できる範囲で協力していただきます。
2. 推進会和近隣町内会とのパイプ役となっていただきます。
3. 「当番表」による地域での再生資源完全分別収集、粗大ゴミ収集の徹底に率先協力指導して下さい。
4. コミュニティ推進員は福祉員としても活動していただきます。(日赤、社会福祉協議会関係募金集め)
5. コミュニティ推進員もボランティアとして活動することになります。避難を伴う緊急時は、自治会(町内会)を纏め、安全で安心して暮らせる地域づくりに一致協力して活動することになります。